



博報堂DYメディアパートナーズ2013年度入社式社長挨拶

株式会社博報堂DYメディアパートナーズは4月1日(月)午前11時、東京都港区赤坂の本社に新卒採用者18名を迎え、大森壽郎社長以下、役員および部門長が出席し、2013年度入社式を行いました。

新入社員がひとり一人紹介された後、大森社長が歓迎と激励の言葉を贈り、新入社員代表が決意の言葉を述べ、式を終了しました。

大森社長挨拶の趣旨は以下の通りです。

皆さん、入社おめでとうございます。

今日ここに18名の新しい仲間を迎えることを心から嬉しく思います。

博報堂DYメディアパートナーズ全員、さらには博報堂DYグループ全員で皆さんを歓迎します。

2003年12月に設立された当社は、今年12月に設立10周年を迎えます。

また、2013年はマスメディアの代表格とも言えるテレビ放送の60周年でもあります。

その特別な年を、皆さんと共に、今この瞬間から、力強く歩み始めるわけです。

やる気に満ち溢れた皆さんの顔を見ていると、本当に頼もしい限りです。

博報堂DYメディアパートナーズは、「メディア効果をデザインする」ことを企業理念とし、生活者や得意先企業、媒体社・コンテンツホルダーの全てに深く関わるポジションにあります。私たちに求められていることは、変化を追いかけるのではなく、変化の本質を捉えて先んじて変化に備えていくことによって、新しい価値を創造し、社会に提供することです。

私たちを取り巻く環境は、留まることなく日々大きく変化しています。デジタルテクノロジーの進展は加速化し、生活者のメディア接触行動は劇的な変化を続けています。

生活者は絶え間なく情報を受信したり発信したりしながらリアルタイムで様々な所とつながっています。当社メディア環境研究所の調査によると、高校生の2人に1人はスマートフォンを所有し、さらに4人に1人は、初めて持つ携帯電話がスマートフォンであるという結果が出ています。デジタルネイティブという言葉を目にするようになって久しいですが、まさにスマホネイティブとでも言える次世代の登場の兆しがすぐそこに見えはじめています。

得意先は、そのような生活者に共感が広がるようなマーケティングコミュニケーション手法を模索しています。また、媒体社やコンテンツホルダーは自分たちの資産を再価値化し、それを活用した新しいビジネス市場を開拓し始めています。その変化のど真ん中に立っているといても過言ではない私たちは、世の中の力を引き出し、支援する役割を担っています。

私は、今年の年頭先輩社員のみんに、「越境を楽しむ」という話をしました。「境を越える」の越境です。

デジタル技術の進展は、いろいろな垣根を取り払い、「越境」を容易にしていきます。スマートフォンは、携帯電話にカメラやインターネットといった機能の垣根を越境したプロダクトです。そのことに象徴されるように、デジタル化による越境はますます当たり前になり、近い将来、デジタルという言葉さえなくなる時がくるかもしれません。社会の大きな変化に備えるために、まずは私たち自身が変化の中に身をなげだして「越境を楽しむ」ことが大切になると思っています。

新人の皆さんには、「越境を楽しむ」ための準備をしっかりとしていただきたいと思います。

その時に肝に銘じてほしいこと、それは、「越境を楽しむ」とは、ひょいひょいといろいろな領域に足を踏み入れることを楽しむのではないということです。新しい領域で、自分が加わったからこそ可能となる新しい価値創造を楽しむということです。

若いということは、素晴らしいことです。皆さんは持ち前の行動力で、少々の高さの垣根ならばとも簡単に越えることでしょう。もしかしたら、自由な発想で垣根とすら感じることはないかもしれません。皆さんには小さくまとまってほしくはありません。今しかできないことを、失敗を恐れず伸び伸びとチャレンジし続けてほしいと、強く願います。

しかし同時に、まず足元をしっかりと固めてもらわなければなりません。

そのために、皆さんにやっていただきたいことはただ一つ。「専門性を身につけること」です。専門性の高いプロフェッショナルが越境し、もともとそこにいたプロフェッショナルと融合することではじめて、化学反応がおこり、それまで双方が思いもしなかった新しい価値が創り出されます。

専門性を身につけ、磨くことこそが、越境を楽しむことの第一歩なのです。

ただ、まだ社会人としての一步を踏み出したばかりの皆さんに、「専門性を身につける」といったところで、何をすればいいか迷ってしまうでしょう。そのために、まずやらなければならないこと、それは、「人とたくさん話をする」ということです。

仕事には教科書がありません。ただ、皆さんの周りには、先輩や同期、お取引先のご担当など、たくさんの方がいます。新人の強みは、自分を助けてくれる人がたくさん周りにいるということです。メールや電話だけではなく、できるだけ1対1で、ひざを交えて話をしてください。自分の考えをぶつけ、多くの方の考えに触れることで自分の力を引き出してもらえます。賛同したり意見したりしてくれる仲間を作ることこそが、専門性を研鑽するには必要なことです。

そして、人と話をするときには、「企てる」ということを意識してください。

「人とたくさん話をする」には、自ら十分に考え抜いて、行動し続けるエネルギーが必要になります。自分の決めたことを実現するために、必死に考え、手を尽くし、心を尽くして行動すること。つまり「よく準備する」ことが、そのエネルギーの源泉になります。わかりやすく置き換えると、「思い」という言葉が近いかもしれません。

ただし、「企てる」ことは、行動をとともなう強い思いであり、周りを動かす力を持ちます。

さて、いよいよです。

博報堂DYメディアパートナーズの新しいステージの始まりであり、皆さんの時代の幕開けです。臆することなく、堂々と大きな一步を踏み出しましょう。一丸となって、社会に元気を作り出しながら、前に進んでいきましょう。皆さんの成長に期待します。

以上

2013年4月1日
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
広報室広報グループ 藤井・山崎
(TEL 03-6441-9347)